



※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	4年5月期3Q	14,048,064株	3年5月期	13,719,064株
② 期末自己株式数	4年5月期3Q	5,607株	3年5月期	5,523株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	4年5月期3Q	13,821,882株	3年5月期3Q	13,633,221株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が進み経済活動の回復の動きが見られていましたが、新たな変異株の感染症再拡大により、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

医薬品業界におきましては、令和3年6月閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2021」において「後発医薬品の品質及び安定供給の信頼性の確保、新目標についての検証、保険者の適正化の取組にも資する医療機関等の別の使用割合を含む実施状況の見える化を早期に実施し、バイオシミラーの医療費適正化効果を踏まえた目標設定の検討、新目標との関係を踏まえた後発医薬品調剤体制加算等の見直しの検討、フォーミュラリの活用等、更なる使用促進を図る。」と示され、後発医薬品の品質及び安定供給の信頼性の確保、並びに使用促進を行う方針が示されております。

ジェネリック医薬品の普及が拡大してきた一方、令和4年4月に薬価改定が行われ、今後毎年薬価改定が実施されることが決まっており、医薬品業界の事業環境は厳しいものとなることが予想され、当社としても一層の経営効率化への努力が求められております。

また昨今の医薬品における品質に係る問題により、医薬品業界の置かれる環境は厳しさを増しておりますが、当社では日々の生産における製造管理・品質管理を徹底するとともに、見直すべき点があれば積極的に改善を進め、より一層の製造管理及び品質管理の強化に取り組んでおります。

このような状況のもと、当社グループは生産基盤の充実を図りながら積極的な営業活動を展開いたしました。

売上高の販売品目ごとの業績は次のとおりであります。

原薬では、一部既存品目の販売の減少がみられたものの全般的に堅調に推移し、売上高は14,807百万円となりました。

製剤では、自社開発ジェネリック医薬品及び高薬理活性製剤の販売増加、医療用医薬品における新規の新薬や長期収載品の製造受託の販売増加があり堅調に推移し、売上高は18,569百万円となりました。

健康食品他につきましては、市場における競争激化等により、厳しい状況で推移し、売上高は205百万円となりました。

新型コロナウイルス感染症の流行による当第3四半期連結累計期間への影響は軽微でありました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高33,583百万円、営業利益5,646百万円（前年同期比5.8%増）、経常利益5,794百万円（前年同期比6.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,978百万円（前年同期比7.5%増）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、令和4年5月期第3四半期に係る各数値は、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。売上高は対前年同四半期増減率を記載しておりません。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末より4,940百万円増加し、62,679百万円となりました。これは主に、投資その他の資産の減少313百万円があった一方で、現金及び預金の増加887百万円、受取手形及び売掛金の増加2,493百万円、電子記録債権の増加1,146百万円、原材料及び貯蔵品の増加516百万円などがあったことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末より553百万円増加し、16,375百万円となりました。これは主に、その他の流動負債の減少265百万円などがあった一方で、電子記録債務の増加513百万円、長期借入金の増加468百万円などがあったことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末より4,387百万円増加し、46,304百万円となりました。これは主に、資本金の増加450百万円、資本剰余金の増加450百万円、利益剰余金の増加3,317百万円などがあったことによるものであります。

これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度より1.2ポイント増加し、73.3%となっております。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和4年5月期（令和3年6月1日～令和4年5月31日）の通期連結業績予想につきましては、令和3年7月14日に公表いたしました予想数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和3年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和4年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,372,906	4,259,985
受取手形及び売掛金	8,382,038	10,875,852
電子記録債権	4,392,604	5,539,553
商品及び製品	4,249,005	4,338,824
仕掛品	5,056,354	5,209,506
原材料及び貯蔵品	6,446,294	6,962,600
その他	550,711	663,610
貸倒引当金	△20,010	△7,390
流動資産合計	32,429,904	37,842,543
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,970,814	10,896,770
機械装置及び運搬具(純額)	5,734,231	5,059,538
その他(純額)	4,666,986	5,232,954
有形固定資産合計	21,372,031	21,189,263
無形固定資産		
その他	332,688	356,615
無形固定資産合計	332,688	356,615
投資その他の資産		
投資有価証券	2,801,800	2,704,670
その他	814,958	598,712
貸倒引当金	△12,018	△11,838
投資その他の資産合計	3,604,741	3,291,545
固定資産合計	25,309,461	24,837,424
資産合計	57,739,365	62,679,967
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,359,585	4,168,586
電子記録債務	3,370,129	3,883,352
1年内返済予定の長期借入金	1,362,317	1,309,292
未払法人税等	1,098,459	949,362
引当金	101,054	381,160
その他	2,567,247	2,302,238
流動負債合計	12,858,792	12,993,992
固定負債		
長期借入金	2,018,865	2,487,692
退職給付に係る負債	764,343	710,523
その他	180,003	183,029
固定負債合計	2,963,211	3,381,245
負債合計	15,822,003	16,375,237

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和3年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和4年2月28日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,271,234	6,721,440
資本剰余金	6,157,425	6,607,631
利益剰余金	28,331,607	31,648,824
自己株式	△13,694	△13,971
株主資本合計	40,746,572	44,963,924
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	792,918	834,162
為替換算調整勘定	197,157	235,464
退職給付に係る調整累計額	△117,688	△112,947
その他の包括利益累計額合計	872,387	956,678
新株予約権	-	9,972
非支配株主持分	298,402	374,154
純資産合計	41,917,362	46,304,729
負債純資産合計	57,739,365	62,679,967

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年6月1日 至 令和3年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年6月1日 至 令和4年2月28日)
売上高	37,835,931	33,583,023
売上原価	28,973,020	24,462,883
売上総利益	8,862,910	9,120,139
返品調整引当金戻入額	2,806	-
差引売上総利益	8,865,717	9,120,139
販売費及び一般管理費	3,528,821	3,474,110
営業利益	5,336,895	5,646,028
営業外収益		
受取利息	872	424
受取配当金	60,287	55,166
受取保証料	8,500	1,208
受取保険金	-	57,420
為替差益	24,389	16,468
その他	27,465	43,862
営業外収益合計	121,516	174,550
営業外費用		
支払利息	6,383	7,049
支払手数料	24,373	11,301
その他	5,604	7,743
営業外費用合計	36,361	26,094
経常利益	5,422,050	5,794,485
特別利益		
補助金収入	155	23,172
投資有価証券売却益	-	246,610
特別利益合計	155	269,782
特別損失		
固定資産除却損	5,792	1,584
固定資産圧縮損	-	23,172
火災損失	-	22,899
投資有価証券評価損	-	107,469
特別損失合計	5,792	155,125
税金等調整前四半期純利益	5,416,413	5,909,141
法人税等	1,733,334	1,960,330
四半期純利益	3,683,079	3,948,811
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△16,839	△29,329
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,699,918	3,978,141

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年6月1日 至 令和3年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年6月1日 至 令和4年2月28日)
四半期純利益	3,683,079	3,948,811
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△203,436	41,243
為替換算調整勘定	42,246	74,989
退職給付に係る調整額	23,076	4,740
その他の包括利益合計	△138,114	120,972
四半期包括利益	3,544,965	4,069,784
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,548,991	4,077,744
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,026	△7,960

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る新株予約権の行使に伴い、資本金450,206千円、資本剰余金450,206千円がそれぞれ増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金6,721,440千円及び資本剰余金6,607,631千円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の変更)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、顧客への商品の提供における当社の役割が代理人に該当する取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客から受け取る額から商品の仕入れ先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更を行っております。また、将来返品見込額の会計処理について、返品調整引当金を見積り売上総利益から控除する方法から、売上高並びに売上原価から控除する方法に変更を行っております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,010,789千円、売上原価は6,010,793千円それぞれ減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響もありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「引当金」に含めて表示していた「返品調整引当金」については、第1四半期連結会計期間より、返金負債は「流動負債」の「その他」に含めて表示し、返品資産は「流動資産」の「その他」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法による組替えを行っておりません。また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、これにより四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 令和2年6月1日 至 令和3年2月28日)

当社の報告セグメントは、「医薬品事業」のみであり、その他の事業セグメントの重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 令和3年6月1日 至 令和4年2月28日)

当社の報告セグメントは、「医薬品事業」のみであり、その他の事業セグメントの重要性が乏しいため、記載を省略しております。